令和6年度第1回加古川市子ども・子育て会議 議事要旨

- 【日時】 令和6年6月25日(火) 9時30分～11時00分
- 【場所】 加古川市役所北館 4階大会議室
- 【出席委員】 松田会長、阿部副会長、深川委員、宮井委員、浅野委員、北野委員、江指委員、大橋委員(8名)
- 【会議次第】
- 1 開会
 - 2 報告事項
 - (1)教育・保育の利用状況及び取組状況について
 - (2)地域子ども・子育て支援事業の取組状況について
 - (3)子育て支援に関するアンケート調査結果について
 - (4)放課後の過ごし方等についてのアンケート調査結果について
 - 3 議事
 - (1)「(仮称)加古川市こども計画」策定について
 - 4 その他
 - 5 閉会
- 【配付資料】
- 資料1: 座席図
- 資料2: 委員名簿
- 資料3: 加古川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業 利用定員一覧表(令和6年4月1日現在)、利用定員の変更について
- 資料4: 令和6年度 保育所等(2号・3号認定)の入所状況及び待機児童数について(令和6年4月1日現在)
- 資料5: 令和6年度 幼稚園等(1号認定)の施設別入園状況(令和6年5月1日現在)
- 資料6: 地域子ども・子育て支援事業の取組状況
- 資料7: 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)の施設整備状況について
- 資料8: 令和6年度 児童クラブ別・学年別児童数(令和6年4月1日現在)
- 資料9: 子育て支援に関するアンケート調査 調査結果報告書
- 資料10: 放課後の過ごし方についてのアンケート結果
- 資料11: 自治体こども計画策定のためのガイドライン(こども家庭庁)
- 資料12: (仮称)加古川市こども計画の位置付けについて
- 資料13: (仮称)加古川市こども計画策定スケジュール(令和6年5月末時点)

【議事要旨】

1 開会	
2 報告事項	<p>(1)教育・保育の利用状況及び取組状況について 資料3から5により説明</p> <p>(質問・意見等なし)</p> <p>(2)地域子ども・子育て支援事業の取組状況について 資料6から8により説明</p> <p>委員 保育コンシェルジュ(相談窓口)に関して、利用方法が分かりづらい。また、アンケート調査による利用割合が他と比べても低いため、認知度を高める必要があると思われる。効果的な窓口だと思うので、ぜひPRをしてほしい。</p> <p>事務局 保育コンシェルジュについて、現在加古川市役所の幼児保育課の窓口に1名配置している。利用方法等複雑だという意見もお伺いしているので、今後PR方法を含め、あり方を検討していきたいと考えている。</p> <p>委員 児童クラブに関して、1人の支援員に対して受入れできる児童の人数が決まっていると聞いたことがある。資料6において、確保方策と実績値に乖離があるように見受けられるが、児童の人数に基準はあるのか。また、基準は守られているのか。</p> <p>事務局 児童数が40人以下においては支援員1人・補助員1人を配置、また41人以上においては補助員2人を配置するという基準があり、加古川市の全ての児童クラブで基準を満たしている。また、児童数だけではなく、配慮が必要な児童に対しては個々の対応が必要となることもあり、児童が安心して利用できるように、補助員を増員するなどの対応を行っているところである。</p> <p>委員 今年度から児童クラブの運営を民間事業者が行っていると聞いたが、状況についてお伺いしたい。</p> <p>事務局 今年度から、市内15小学校36クラブにおいて、児童クラブの運営を民間事業者に委託している。例年、夏季休業中や児童クラブ職員の退職に伴う欠員時の人員配置について、児童クラブ推進員と連携しながら、安定的な児童クラブ運営のための体制を整えていたが、課題もあった。しかし、民間事業者に委託したことにより、現在、支援員の欠員がない状態となっている。 また、民間事業者の業務責任者の日々の巡回による報告書や、児童クラブ推進員の巡回により、子ども達の様子や児童クラブ職員の対応を確認しているが、安定的な運営ができていると思っている。しかし、現状に満足することなく、保護者アンケートにより、保護者のニーズを把握し、ニーズに合った運用等について、今後も検討していきたい。</p> <p>委員 子育てプラザにおいても、保護者から入園についての相談を受けることが多い。保育コンシェルジュ(相談窓口)の案内も可能だと考えるので、PRに協力していきたい。</p>

	<p>事務局 ありがとうございます。ご協力いただけると有り難いです。保育コンシェルジュ(相談窓口)については、更なるPRの必要性を感じており、保育コンシェルジュだけでなく幼児保育課全体においても相談体制を充実させていく必要があると感じている。</p> <p>(3)子育て支援に関するアンケート調査結果について 資料9により説明</p> <p>委員 アンケート調査問9(資料9、P7)「ご近所とどの程度お付き合いをしていますか」という設問について、前回調査と比べ「付き合いがある」と回答した割合が下がっているが、行政として何かアプローチできる場面はあるか。</p> <p>事務局 近所づきあいに対する直接的な対応は難しいと思われるが、一方で子育てプラザ等でのサークル活動は多くなっている。社会問題として母親の孤立化ということも挙げられているので、交流の場の充実を含めた事業の検討を行っていく。</p> <p>委員 先ほどの件で、障がい児をもつ保護者の交流の場も設けていただけるとありがたい。</p> <p>事務局 今年度から機構改革により、支援を必要とする児童生徒とその保護者への総合的な窓口を整備するために、青少年育成課から改称し教育支援課が整備された。新たに特別支援教育係が加わり、少年愛護センターや教育相談センターと協力しながら、不登校や障がい児を含めた教育相談について検討していく。</p> <p>(4)放課後の過ごし方等についてのアンケート調査結果について 資料10により説明</p> <p>(質問・意見等なし)</p>
3 議事	<p>(1)「(仮称)加古川市こども計画」策定について 資料11から13により説明</p> <p>委員 「(仮称)加古川市こども計画」にて「こども」とはどこまでの年齢を想定するのか。</p> <p>事務局 こども基本法において、「こども」とは「心身の発達の過程にある者」と定義しており、「(仮称)加古川市こども計画」では、若者も包括することと国から指針が発出されていることから、39歳以下を対象者として検討していく予定である。</p> <p>委員 今後「(仮称)加古川市こども計画」を策定するにあたり、市として様々な年齢層をターゲットにした計画を立て対策を講じていかなければならないということですね。今後検討していく中で、現時点で加古川市における課題を認識しているか。</p>

事務局	<p>現在策定している「第二期加古川市子ども・子育て支援事業計画」は、18歳までの子どもと保護者(子育て家庭)を対象としている。対象年齢が39歳までとなると、仰るようにターゲットがかなり広がることとなる。そのため、教育委員会と市長部局(こども部)で今まで連携を行ってきたが、今後はその他の部局(福祉部等)も含めた対策が必要となってくると認識している。</p> <p>また、加古川市には「(仮称)加古川市こども計画」以外にも、様々な計画があり、それを子ども・若者という視点でこども施策として横断的に串刺しをしていくことになる。その中で、連携がさらに進み、効果的な施策が実施できることを期待している。</p>
委員	<p>アンケート結果問1(資料10、P1)「放課後にどのような場所で過ごさせたいですか」という設問について、図書館や公園が13%あることに着目している。加古川市に引っ越し後、図書館やウェルネスパーク、少年自然の家等を利用しており、どの施設も積極的にイベント等を実施しており、子どもの教育にとっても良い施設だと感じている。継続して実施していただくとともに、学校以外の施設に対するアプローチも計画に盛り込んでいただきたい。</p>
事務局	<p>アンケート結果問27(資料9、P77)自由記述においても、公園の増設やイベントの充実等という意見が多かった。市においてもこどもの居場所作りといった課題を認識しており、ご指摘いただいた視点とともに、今後検討していく。</p>
委員	<p>「第二期加古川市子ども・子育て支援事業計画」においては、基本理念や基本目標を立てて計画を策定しているが、今後の計画策定の予定等は決まっているのか。</p>
事務局	<p>仰るように今後まず第一に、基本理念・基本方針を立てることから始めなければならない。現時点では次回の会議において、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと考えている。</p> <p>国が策定した「こども大綱」においては、「こどもまんなか社会(全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会)」を目指すことと規定されている。そのため、市でもその視点を含めた基本理念・基本方針を立てる必要があると考えている。</p> <p>先ほども説明したが、「(仮称)加古川市こども計画」では、子ども・若者という視点でこども政策全体として串刺しをしていくことになるため、「第二期加古川市子ども・子育て支援事業計画」では支援事業計画として量の見込みに重きを置いていたものを、「(仮称)加古川市こども計画」では、施策・事業に重きを置くことになると現時点では想定している。</p>
4 その他	
委員	<p>障がい児の放課後の過ごし方について、支援学校に通っているため、児童クラブへの入所やファミリー・サポート・センターへの依頼はハードルが高いと感じている。放課後等デイサービスについて市の支給量が週3日までのため、週5日等に補助の拡大を検討をしていただきたい。</p>
事務局	<p>放課後等デイサービスについては、市で月当たりの支給量を決めているため、近隣他市と支給量が異なっている。市内の事業所のサービス提供状況や、近隣他市の状況を検討しながら、支給量の範囲を決めている。</p> <p>福祉部の業務になるので、会議後に担当課に伝える。</p>
委員	<p>福祉部の業務とお聞きはしたが、現在保育園・幼稚園においても、障がい児が増えていると実感している。ただし、保護者からは放課後等デイサービスを利用しても効果が分からないという意見も聞こえてくる。放課後等デイサービスは事業開設にあたり何か条件はあるのか。</p>

事務局	<p>放課後等デイサービスの事業所(障害児通所支援事業、児童福祉法における指定障害児通所支援)を開設するためには、県の指定が必要となっている。市においても、県が認可する際に意見を求められることになっており、実地指導等についても福祉部において県と協力して行っているところである。</p>
委員	<p>通っている子どもたちが、何か得るものがあると良いと思い質問しました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>放課後児童クラブについて、他市では早朝受け入れを行っていると聞いたことがある。加古川市では検討しているのか。小学校に入ったら子どもの預け先等をどうしようという話をよく耳にする。</p>
事務局	<p>加古川市では、平成30年度までは午前8時からの受け入れであったが、平成31年度以降は午前7時45分から受け入れを行っている。 アンケート結果問1(資料10、P4)「利用開始希望時間」という設問について、現在より早い時間の開設を希望している方がいるため、今後検討していきたい。</p>
5 閉会	